

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名			高齢者等畜産奨励金事業			担当課	農政畜産課				(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
						担当G	畜産グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン (基本目標)			振興計画	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計 1	款 6	項 1	目 6	備考	ア	奨励金の交付頭数	頭	1,435 1,171	1,470 1,168	1,370 1,133	1,200	1,200	1,200
(個別目標)			計画体系	2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	報償費				イ									
(施策)			2	1次産業の振興	対象	70歳以上及び単身女性経営の肉用繁殖牛飼養農家 但し、子牛せり市時の名簿を基本				成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
(基本目標)			総合戦略	1		稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	ア		繁殖牛飼養戸数	頭	423 389	389 362	360 328	300	300	300				
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	H6 年度～ 年度（ 年間）				イ	繁殖牛飼養頭数	戸	7,330 7,284	7,284 6,992	7,000 6,677	6,800	6,800	6,800		
(1)総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	受給対象となる方々全てに支給できている。70歳に達すれば全ての生産牛農家が対象となる。また、単身女性経営者においても対象となる。								
			その他特定財源	千円																
			一般財源	千円	3,513	3,504	3,399	6,000	6,000				6,000							
			事業費計 (A)	千円	3,513	3,504	3,399	6,000	6,000				6,000							
			所要人員 (年間)	人	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300				0.300							
			人件費概算 (B)	千円	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680				1,680							
			(A) + (B)	千円	5,193	5,184	5,079	7,680	7,680				7,680							
(2)事業概要										効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	令和元年度より1頭当たりの奨励金を3,000円とした。 令和4年度より、交付上限を20頭とした。 令和6年度より1頭当たりの奨励金を5,000円とし、交付上限を10頭とする。								
事業目的	高齢者等へ子牛の市場出荷を奨励することにより、畜産基盤の確保を図る。																			
事業内容	70歳以上及び単身女性経営者（以下高齢者等）が有する豊富な経営能力及び飼養技術を活用しながら高齢者等が畜産経営を継続することで、畜産基盤の確保を図る。																			
必要性	高齢者及び女性単独経営者は子牛をせり市場に運搬することが困難なため委託することが多く、経費がかかる。その一部を助成するために旧町において平成6年頃より開始。合併を期に交付基準等統一された。																			
実施状況	(R5年度実績) 177件、1,133頭に対して支給を行った。3千円/頭。								達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	高齢者等に対し交付することで、生産基盤の維持につながっている。但し、大規模農家の高齢化が進んでいる。									
成果	肉用牛は本市の重要な基幹作目であるが、これら高齢者等が飼養を継続されることで、生産基盤の維持につながり、高齢者の生産意欲向上に貢献できた。																			
課題	高齢者等が飼養している肉用繁殖雌牛の頭数は、約3割を占めているため、生産基盤の維持が必要である。また、多頭飼育者の対象が含まれるようになる。 子牛価格の下落に伴い、飼養意欲が減退し生産基盤の維持が懸念されるため、費用の負担軽減を図る必要がある。								改革改善案	規模拡大農家および新規就農者を支援し、生産基盤の拡大を図る施策についても、今後、検討が必要である。										

事務事業名		志布志市畜産振興協議会事業			担当課 担当G		農政畜産課 畜産グループ			(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度							
										活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち			予算科目		会計	款	項	目	備考											
(個別目標)			2	1次産業が発展し続けるまち			主な費目		補助金、負担金及び交付金															
(施策)			2	1次産業の振興			対象		生産者団体						成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする			事業期間		H21 年度～ 年度（ 年 年間）						ア	粗生産額（畜産部門）	億円	190 191	190 194	190 203	200	200	200	
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト											イ									
(1)総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円											有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	家畜飼養管理技術は日々新しい技術導入があるため、各部会の研修会等を通じて農家毎の技術向上が図られる。また、部会組織がある生産者はすべて対象となるので公正である。							
			その他特定財源	千円																				
			一般財源	千円	1,132	1,567	2,540	2,554	2,554	2,554	2,554													
			事業費計 (A)	千円	1,132	1,567	2,540	2,554	2,554	2,554	2,554													
			所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.200	0.100	0.100	0.100	0.100													
			人件費概算 (B)	千円	560	560	1,120	560	560	560	560													
			(A) + (B)	千円	1,692	2,127	3,660	3,114	3,114	3,114	3,114			効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	志布志市における産業として肉用牛・豚・ブロイラーは重要な位置づけにあり、産業振興及び税収の確保の観点から行政として関わる必要がある。2農協にまたがるため、各部会の統合は現状として難しい。事務局は本市へ一本化されているため、事務局の効率化は図られている。								
(2)事業概要																								
事業目的	畜産関係団体の活動の連携及び振興方策の推進並びに関係機関との連携を促進することにより、農家の所得向上と市の畜産振興を図る。																							
事業内容	市内畜産生産者団体で構成し、畜産に係る活動の連携と振興方策の推進、関係機関との連携を促進することにより農家の所得の向上と市の畜産振興を目的に活動するため、運営補助金と農協助成金を受け入れ、協議会の活動と生産者団体へ助成金を交付する。令和5年度には畜産振興大会を開催。																							
必要性	合併協議の中で、畜産関係団体を統合した団体を設立し、運営費補助の簡素化と各種事業を農協と市と一緒に取り組むことを目的として設立する方向で協議してきた。																							
実施状況	・生産者団体への助成金交付 ・総会の開催																							
成果	生産者団体ごとの活動を通じ、畜産農家の所得向上推進と、本市畜産振興に資した。												改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了					
課題	関係団体と継続した連携を図り、振興策の推進と生産者団体の円滑な活動に努める必要がある。													市と農協が相応分の負担を行い、畜産振興に取り組むための協議を行う。また畜産振興大会について、開催年等の協議を行う必要がある。本市畜産振興を図るうえでは、必要な組織である。										

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		肥育経営支援対策事業			担当課		農畜産課			(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
					担当G		畜産グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
					会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)						
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち			予算科目	1	6	1	6			475 415	470 413	460 361	365	365	365		
(個別目標)		2	1次産業が発展し続けるまち			主な費目	負担金、補助及び交付金														
(施策)		2	1次産業の振興			対象	肉用肥育素牛を外部導入する農家 (肥育専門・一貫経営農家)						成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする										(実績)	(実績)	(実績)					
(施策)		2	新規就農総合支援プロジェクト			事業期間	H26 年度～ 年度（ 年間）						イ	市内子牛平均価格	千円	700 720	600 551	600 486	500	500	500
(1)総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価				
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	肥育素牛導入支援について継続して実施することにより、肥育農家における導入頭数の確保並びに、市内産子牛のセリ価格を向上させる。また、要件を満たす肥育農家の全てが対象であり、公平である。						
		財源内訳	その他特定財源	千円																	
	財源内訳	一般財源	千円	7,210	7,150	7,213	11,000	11,000	11,000												
	事業費計 (A)	千円	7,210	7,150	7,213	11,000	11,000	11,000													
	所要人員 (年間)	人	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250													
	人件費概算 (B)	千円	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400													
(A) + (B)		千円	8,610	8,550	8,613	12,400	12,400	12,400													
(2)事業概要																					
事業目的	配合飼料価格の高止まりにより、肥育農家が厳しい経営環境にあることから、肥育素牛の購入支援を行い、経営基盤の維持を図る。																				
事業内容	経済不況等に起因する消費の減退や各種資材等の高止まりに伴い、牛肉の消費が低迷し、肥育経営は厳しい環境であることから、市内の肥育牛農家が導入する肥育用子牛の導入費用に対し、補助金の支出を行うことで、肥育牛経営の維持を図る。																				
開始経緯	経済不況等に起因する消費の減退に伴い、牛肉の消費が低迷し、肥育経営並びに繁殖経営ともに厳しい環境であることから子牛価格の引き上げと導入負担軽減をはかる必要があった。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う消費等減退や、濃厚飼料価格高騰等に伴う経営逼迫が懸念されているため、引き続き支援が必要である。																				
実施状況	(R5年度実績) 黒毛和種 : 205頭6,133千円 (30,000円/頭) 交雑種 : 60頭 600千円 (10,000円/頭) 交雑種初生牛 : 96頭 480千円 (5,000円/頭)																				
成果	新型コロナウイルスの影響により、枝肉価格が下落し肥育経営を逼迫した時期もあったが、この事業を活用したことで市内産子牛及び肥育素畜の頭数確保ができた。																				
課題	新型コロナウイルスの影響による先行きの不透明感並びに枝肉価格の低迷及び各種資材等の高騰から、引き続き支援を行う必要がある。 また、資材や飼料価格等が高騰し、経営を逼迫している状況であるため、支援の拡充を図ることにより、肥育経営の維持を図る必要がある。																				
改革改善案		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了		円安等による資材、配合飼料価格高騰や、牛肉消費減退等の影響により経営が逼迫している状況のため、計画的な導入が困難となっている。 生産資材や飼料等の高止まりに伴う生産費の上昇に伴う支援を見直す必要がある。									

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		高品質生産対策事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
				予算科目	会計	款	項	目	備考									
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	1	6	1	6		ア	導入頭数	頭	545 410	493 332	481 254	391	391	391
（個別目標）		2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ								
（施策）		2	1次産業の振興	対象	肉用牛繁殖飼養農家 搾乳用乳用牛飼養農家 養豚繁殖豚飼養農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
（基本目標）		総合戦略	1							稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	ア	粗生産額（畜産部門）	億円	190 191	190 194	190 203	200	200
（施策）		2	新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	H26 年度～ 年度（ 年間）					イ								
(1) 総事業費の推移			単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円			700	700	700	700	有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	支援を行うことにより、導入の意欲向上が図られる。 また、所得向上へつながる対策である。 廃止することで、導入意欲減退につながる恐れがある。					
			その他特定財源	千円														
			一般財源	千円	18,097	11,177	9,687	20,900	20,900	20,900								
			事業費計（A）	千円	18,097	11,177	10,387	21,600	21,600	21,600								
			所要人員（年間）	人	0.300	0.300	0.400	0.400	0.400	0.400								
			人件費概算（B）	千円	1,680	1,680	2,240	2,240	2,240	2,240								
			(A) ＋ (B)	千円	19,777	12,857	12,627	23,840	23,840	23,840								
(2) 事業概要																		
事業目的	各畜種において、市場性や生産性の高い種畜の保留導入を進め、農家経営の維持向上を図る。																	
事業内容	（肉用牛）毎月開催される曾於地区子牛展示品評会において、最優秀賞または優秀賞牛で、曾於中央家畜市場から導入、保留した雌子牛とし、導入後3ヶ月以上飼育した雌子牛が対象。また、前記以外の牛で、当該年度の曾於地区畜産共進会（郡共）出品牛も対象とする。 （乳用牛）外部導入（市場から血統が明らかな種畜を購入すること）・自家保留（農家で育成した種畜を搾乳用に仕向けること）される雌子牛とし、導入・保留後3ヶ月以上飼育した雌牛が対象。 （豚）繁殖用専門に飼育された農場より、外部導入（市場や種豚場）される種畜（豚♀・♂）とし、導入後3ヶ月以上飼育した種畜が対象。 なお、肉用牛においては県の全共出品対策事業も活用する。																	
開始経緯	合併以前より、畜産生産基盤の維持、強化や改良を図ることを目的として、導入等に対して支援を行った。 なお、濃厚飼料費の高騰、円安等により経営費の逼迫が懸念されるため、引き続き支援が必要である。																	
実施状況	（R5年度実績） （1）肉用牛：子牛展示品評会出品牛＝最優秀市内37頭、市外5頭、優秀26頭 ＝曾於地区畜産共進会出品牛＝最優秀9頭、優秀22頭 （2）乳用牛：自家保留・導入74頭 （3）豚：雄6頭、雌75頭																	
成果	優良種畜の確保が図られ、改良と生産基盤の維持に寄与した。																	
課題	安定した生産基盤の維持のため、継続した支援が必要である。 また、資材や飼料価格等が高止まりし、経営を逼迫している状況であるため、支援の拡充を図ることにより、肉用牛、乳用牛、豚の経営基盤の維持を図る必要がある。																	
											改革改善案	農家所得に直接結びつく内容である。 令和5年度より、肉用牛においては、県単事業（全共出品対策事業）の財源を充当し、導入を図る。 生産資材や飼料等の高止まりに伴う生産費の上昇に伴う支援を見直す必要がある。						

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産施設整備支援事業				担当課		農政畜産課			(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度											
						担当G		畜産グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
						会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)													
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち				予算科目	1	6	1	6		ア	畜産農家戸数	戸	524 486	486 453	450 419	450	450	450								
（個別目標）	2	1次産業が発展し続けるまち				主な費目	負担金、補助及び交付金						イ																
（施策）	2	1次産業の振興				対象	畜産農家						成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)								
（基本目標）	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする										ア	家畜飼養頭数（牛・豚）	頭	115,000 114,661	114,661 120,268	121,000 108,054	110,000	110,000	110,000								
（施策）	2	新規就農総合支援プロジェクト				事業期間	H26 年度～ 年度（ 年間）						イ	家畜飼養羽数（鶏）	千羽	1,300 1,488	1,306 1,579	1,600 1,685	1,685	1,685	1,685								
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価						所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	国、県の事業対象となる場合はその事業を優先して取り組んでいるが、事業採択要件に満たない農家について対応している。 事業実施希望者については、受益者負担がある。 また、事業実施に係る要件が整えば実施できることから、公平・公正である。														
		その他特定財源	千円																										
		一般財源	千円	5,300	1,800	0	3,400	3,400	3,400																				
		事業費計（A）	千円	5,300	1,800	0	3,400	3,400	3,400																				
		所要人員（年間）	人	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250	0.250																				
		人件費概算（B）	千円	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400																				
		(A) + (B)	千円	6,700	3,200	1,400	4,800	4,800	4,800																				
(2) 事業概要																													
事業目的	畜産経営の環境保全を図るとともに、規模拡大や家畜糞尿処理対策に伴う施設整備により、畜産経営の基盤強化を図る。																		効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	補助対象の範囲及び内容に対する補助の程度（補助率及び上限金額）を要綱において設定して、交付している。								
事業内容	規模拡大、家畜糞尿処理に伴う畜産施設整備に対する補助。																												
開始経緯	畜産農家の高齢化等により畜産基盤が弱体化し、基盤を維持拡大するため増頭等と呼び掛けたが、施設整備の費用が多大であることから、国の補助事業では対象とならない施設に対して補助事業を開始した。																		達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	この事業は本市の畜産基盤の維持を図るうえで重要な事業である。								
実施状況	(R5年度実績) 牛舎0棟、堆肥舎0棟																												
成果	規模拡大、家畜糞尿処理に伴う施設整備が図られた。																		改革 改善案	拡充		○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	規模拡大並びに家畜糞尿処理に対応するため、今後も実施し、畜産基盤の維持・拡大を図る必要がある。 節約志向による牛肉消費低迷に伴う、枝肉価格、子牛価格等の下落により、規模拡大への投資が厳しい状況にある。																			資材等の高止まりにより、建設費用の上昇が懸念され、併せて、畜産物価格の低迷等もあり、増頭意欲の減退も懸念される。									

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		肉用繁殖雌牛導入事業貸付金		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		1	6	1	6		ア	貸付導入頭数	頭	93 79	80 52	65 36	55 55	60
(個別目標)		2	1次産業が発展し続けるまち			主な費目		貸付金		イ								
(施策)		2	1次産業の振興		対象		肉用牛繁殖農家		成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
		1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする								ア	子牛平均価格	千円	700 720	600 551	600 486	500 500	500 500
(基本目標)		総合戦略	1	新規就農総合支援プロジェクト		事業期間		年度～ 年度（ 年間）		イ								
(施策)		2																
(1)総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	導入費用を金融機関から借り入れる場合に保証人の確保が困難でありまた、借り入れ利子の負担が発生する。貸付を希望する農家に対し貸付がなされている。貸付限度額を超える導入については自己資金で対応している。					
		財源内訳	その他特定財源	千円														
		財源内訳	一般財源	千円	23,668	15,299	8,273	19,550	23,000	23,000								
		事業費計 (A)	千円	23,668	15,299	8,273	19,550	23,000	23,000									
		所要人員 (年間)	人	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150									
		人件費概算 (B)	千円	840	840	840	840	840	840									
(A) + (B)				千円	24,508	16,139	9,113	20,390	23,840	23,840								
(2)事業概要																		
事業目的	肉用牛の改良及び増頭を円滑に実施するため、無利子で資金を貸し付けることにより、経費の軽減を図る。																	
事業内容	繁殖雌牛導入資金を農協に貸し付ける。 子牛＝貸付上限70万円で5年間無利子（貸付上限1/2が市貸付金） 妊娠牛＝貸付上限80万円で3年間無利子（貸付上限1/2が市貸付金）																	
開始経緯	昭和63年より肉用牛繁殖雌牛の更新に係る繁殖牛の育成牛価格が高騰し、適正な更新が困難になり導入資金の貸付について要望があり、同様の制度を設けた。																	
実施状況	(R5年度実績) 貸付内容 36頭（子牛35頭、妊娠牛1頭） 貸付先 そお鹿児島農業協同組合及びあおぞら農業協同組合																	
成果	肉用繁殖牛の改良と適正な更新が図られ、経営安定に資することができた。																	
課題	繁殖基盤の改良、更新、増頭に向けて事業継続が必要である。 子牛価格低迷に伴う貸付が困難となっている。																	
												改革改善案	需要が増加した場合は貸付金額の見直し（増額）が必要である。					
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了	

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		乳用牛導入事業貸付金		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	貸付導入頭数	頭	16 0	10 0	5 0	5	10	10	
（個別目標）			2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	貸付金					イ									
（施策）			2	1次産業の振興	対象	酪農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）		1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする	ア							平均搾乳量	kg	8,700 7,563	8,000 7,466	7,500 7,950	8,000	8,000	8,000		
（施策）		2	新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	H5 年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	本事業を廃止・休止した場合、能力の高い乳用牛の導入が困難となり経営向上に影響がある。貸付限度額を超える導入があった場合は農家が負担している。貸付を希望する農家に対し貸付がなされている。							
		財源内訳	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	0										
		財源内訳	一般財源	千円	0	0	3,500	3,500	7,000	7,000										
		事業費計	(A)	千円	0	0	3,500	3,500	7,000	7,000										
		所要人員	(年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050										
		人件費概算	(B)	千円	280	280	280	280	280	280										
(A) + (B)				千円	280	280	3,780	3,780	7,280	7,280										
(2) 事業概要																				
事業目的	専門農協を通じて酪農家へ無利子で貸付を行い、乳用牛の淘汰、更新により酪農経営の維持安定を図る。																			
事業内容	搾乳用育成雌牛（初任牛）導入資金を県酪農協に貸し付ける。 （貸付上限70万円で3年間無利子）																			
開始経緯	乳用牛の更新に係る育成牛の価格が高騰し、適正な更新が困難になり導入資金の貸付について要望があり、本制度を設けた。																			
実施状況	導入を計画していたが、配合飼料価格等の各種資材の高騰や、牛乳消費減退等により経営が逼迫し、導入できなかった。																			
成果	牛乳生産については、需給バランスの早期改善が必要となっている。																			
課題	適正な更新と改良を行う必要があることから、事業を継続する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需給バランスの早期改善が必要である。																			
												改革改善案	農家段階において、牛群改良を行うことで、乳量を増産できるため、計画的な牛群改良が必要である。また、円安や配合飼料価格高騰等に伴う費用の増加により経営の逼迫が懸念される。なお、令和4年度より、貸付上限の見直しを行った（50万円/頭→70万円/頭）。							
												拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了			

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志市全国和牛能力共進会推進協議会負担金		担当課	農政畜産課				(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度						
				担当G	畜産グループ				活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	生産者団体数	数			9	9	9	9				
（個別目標）		2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金				イ													
（施策）		2	1次産業の振興	対象	志布志市全国和牛能力共進会推進協議会				成果指標（成果・効果）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
（基本目標）	総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする						ア	子牛平均価格	千円			600	500	500	500					
（施策）		2	新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	R5 年度～ 年度（ 年 年間）				イ													
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価						所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源	国県支出金	千円							有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	全共鹿児島大会の結果を受け、早急な取り組みが必要である。 次回大会（北海道大会）への出品を目指す。									
			その他特定財源	千円																		
			一般財源	千円			500	500	1,500	1,000												
			事業費計 (A)	千円	0	0	500	500	1,500	1,000												
			所要人員 (年間)	人			0.100	0.100	0.200	0.200												
			人件費概算 (B)	千円	0	0	560	560	1,120	1,120												
(A) + (B)				千円	0	0	1,060	1,060	2,620	2,120												
(2) 事業概要																						
事業目的	第13回全国和牛能力共進会北海道大会への出品に向けて、生産者及び関係者の機運を高めるとともに、若手農家を中心とした育成技術研修会等を開催し育成技術の向上を図る。																					
事業内容	志布志市全国和牛能力共進会推進協議会の運営に係る負担金																					
開始経緯	全国和牛能力共進会出品に向けての機運を高める。 新たに若手部会を設立し、育成技術並びに経営の発展を図る。																					
実施状況	若手農家を中心とした新たな組織化を行った。																					
成果	全国和牛能力共進会に出品することで、志布志市の名声を高めることができる。また、志布志市内の肉用牛農家への意欲向上につながる。																					
課題	若手農家を中心とした新たな組織（志布志市肉用牛改良青年部会）による、研修会等の実施。																					
改革改善案											拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了						
											農協等の関係機関との連携を図り、育成技術の向上を図り、各種共進会への上位入賞を目指す。また、若手農家を中心とした生産者団体を新たに組織化したことで、市内肉用牛農家の連携が一層図られることが期待できる。											

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産振興大会事業					担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度						
							担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	開催回数	回			3						
(個別目標)										1	6	1	6								3					
(施策)										2	1次産業が発展し続けるまち							主な費目	負担金、補助及び交付金							
(基本目標)		総合戦略	2	1次産業の振興					対象	生産者団体					ア	参加者	人			(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(施策)																		1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする							
			2	新規就農総合支援プロジェクト					事業期間	R5	年度～ R5 年度（1年間）				イ											
(1)総事業費の推移		単位		3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価														
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市内の畜産振興協議会に属する部会員であれば、参加できる。														
			その他特定財源	千円																						
			一般財源	千円			378																			
		事業費計 (A)	千円	0	0	378	0	0	0																	
	人件費		所要人員 (年間)	人			0.100																			
			人件費概算 (B)	千円	0	0	560	0	0				0													
		(A) + (B)	千円	0	0	938	0	0	0																	
(2)事業概要												効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	開催時期を5年に1回とし、費用については市と農協で折半している。今回、各地区部会単位で開催したため、農協との連携により、スムーズに事業を進めることができた。												
事業目的	畜産関係団体の会員相互の親睦と連携を行い、畜産経営継続・発展の意欲向上を図る。																									
事業内容	畜産知識の向上とグラウンドゴルフを通じて会員相互の親睦を図る。																									
開始経緯	畜産関係団体並びに会員相互の親睦を図るため、5年に1回開催する。																									
実施状況	地区毎に開催し、畜産振興に寄与された方を対象とした表彰、講演会やグラウンドゴルフ大会を開催した。 1 有明地区 (1)開催日：令和5年11月8日 (2)場所：有明地区公民館 2 志布志地区 (1)開催日：令和5年11月8日 (2)場所：志布志家畜指導センター 3 松山地区 (1)開催日：令和6年2月14日 (2)場所：尾野見地区公民館									達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	畜産農家の減少や高齢化等により、参加者が減少している。 次回は、令和10年度を計画する。														
成果	大会を通じて、畜産知識の向上と会員相互の親睦を深めることができた。また、畜産農家の経営継続・発展の意欲向上を図ることができた。																									
課題	今回、3地区に分かれて開催したが、次回開催は1か所での開催を検討する。																									
改革改善案												次回（令和10年度）は1か所での開催としたいが、高齢化や農家戸数の減少の状況等を考慮し、開催方法等を検討する必要がある。														

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		肉用子牛臨時経営支援事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	交付頭数	頭			3,626 3,626	1,113			
（個別目標）		振興計画体系	2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ									
（施策）		振興計画体系	2	1次産業の振興	対象	肉用牛繁殖飼養農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする							ア	繁殖農家戸数	戸			328 328	300			
（施策）		総合戦略	2	新規就農総合支援プロジェクト	事業期間	R5	年度～				イ									
						R6	年度（ 2 年間）													
(1) 総事業費の推移				単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	首於中央家畜市場を通して売却、本人、自家保留に対し交付することで、繁殖農家全ての子牛に対し支援することができる。							
		財源内訳	その他特定財源	千円			43,271	13,356												
		財源内訳	一般財源	千円																
		事業費計 (A)	千円	0	0	43,271	13,356	0	0											
		所要人員 (年間)	人			0.300	0.100													
		人件費概算 (B)	千円	0	0	1,680	560	0	0											
(A) + (B)				千円	0	0	44,951	13,916	0	0										
(2) 事業概要																				
事業目的	肉用子牛価格の急激な下落により、厳しい経営状況にある肉用子牛生産農家の支援を行い生産基盤の維持を図る。																			
事業内容	国の和子牛生産者臨時経営支援事業の交付金3/4の差額分である1/4を支援する。																			
開始経緯	子牛価格下落に伴い、子牛生産農家の意欲減退がみられることから、国支援の差額分を支援することで、経営の継続意欲を向上する。																			
実施状況	(1)対象牛 : 子牛せり市出荷牛（自家保留、本人等含む） (2)対象期間 : 令和6年4月～12月せり市分 (3)戸数及び頭数、交付単価 : ア 4～6月分 283戸、1,229頭（5,000円/頭） イ 7～9月分 285戸、1,226頭（15,000円/頭） ウ 10～12月分 271戸、1,171頭（16,000円/頭）																			
成果	国の交付金の差額分を支援を行ったことで、市内肉用繁殖農家の経営継続に繋がり、市内繁殖基盤の維持に寄与した。																			
課題	子牛価格の相場が低迷しているため、今後の国支援策の動向を注視する必要がある。																			
												改革改善案	今後の国支援策の動向を注視する必要がある。							

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産配合飼料高騰緊急支援事業		担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
				担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	対象乳量	t			1,402	1,402				
（個別目標）		振興計画体系	2	1次産業が発展し続けるまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ										
（施策）		振興計画体系	2	1次産業の振興	対象	搾乳用乳用牛飼養農家					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする							事業期間	R5	年度～ R5 年度（ 1 年間）				ア	乳用牛農家	戸		
（施策）		総合戦略	2	新規就農総合支援プロジェクト							イ										
(1) 総事業費の推移		単位		3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価									
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円			3,605			有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	鹿児島県酪農協を通して出荷する生乳に対し交付することで、市内乳用牛（酪農）農家全体に支援することができる。									
		財源内訳	その他特定財源	千円																	
		財源内訳	一般財源	千円																	
		事業費計（A）	千円	0	0	3,605	0	0	0												
		所要人員（年間）	人																		
		人件費概算（B）	千円	0	0	0	0	0	0												
(A) + (B)		千円	0	0	3,605	0	0	0													
(2) 事業概要																					
事業目的	電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金を活用し、配合飼料高騰等の影響を受ける酪農経営の負担軽減の支援を行う。									効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	財源については、全て国の「電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を活用する。									
事業内容	配合飼料の高止まりによる一部支援を行う。支援は生乳出荷3円/kgとする。																				
開始経緯	国の電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金により、乳用牛農家支援として実施する。																				
実施状況	配合飼料価格の高騰等の影響を受ける、市内乳牛飼養者（酪農家）の負担軽減の支援をするため、市内乳牛飼養者（酪農家）7戸に配合飼料価格の値上がり相当分の補助金交付を行った。									達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	事業期間は令和5年度となる。									
成果	配合飼料の価格高騰相当分の支援を行うことで、市内乳牛飼養者（酪農家）の負担軽減になり、経営が厳しい中、経営の維持が図られた。																				
課題	配合飼料価格が高止まりしていることから、今後も注視する必要がある。																				
										改革改善案	今後の国支援策の動向を注視する必要がある。										

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		畜産共進会等謝礼事業				担当課	農政畜産課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度						
						担当G	畜産グループ					活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)						
						会計	款	項	目	備考	(実績)			(実績)	(実績)										
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	＜産業経済＞大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち				予算科目	1	6	1	6			ア	市品評会開催回数	回	2	0	2	2	2	2		
(個別目標)			2	1次産業が発展し続けるまち				主な費目	報償費							イ	曾於地区共進会開催回数	回	3	0	3	3	3	3	
(施策)			2	1次産業の振興				対象	肉用牛（繁殖）農家 乳用牛（搾乳）農家							成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)		総合戦略	1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする					事業期間	H18 年度～ 年度（ 年間）							ア	県共進会出品頭数	頭	9	0	10	10	10	10
(施策)			2	新規就農総合支援プロジェクト												イ									
(1)総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価								
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円										有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	共進会に係る指導を通じて、出品者の技能や畜産意欲の維持が図られた。 肉用牛・乳用牛の全てが対象で、出品基準を達成すれば誰もが出場可能である。 種畜改良の推進及び生産意欲向上の場の機会がなくなるため、育成技術向上及び生産意欲が減退する。									
		財源内訳	その他特定財源	千円																					
		財源内訳	一般財源	千円	2,138	117	3,143	7,969	9,000	6,000															
		事業費計（A）	千円	2,138	117	3,143	7,969	9,000	6,000																
		所要人員（年間）	人	0.600	0.050	0.400	0.500	0.500	0.400																
		人件費概算（B）	千円	3,360	280	2,240	2,800	2,800	2,240																
(A) + (B)		千円	5,498	397	5,383	10,769	11,800	8,240																	
(2)事業概要																									
事業目的	市、曾於地区、県等段階での共進会を通じて飼養者の技術向上や、家畜の資質向上、併せて意欲の向上を図り、経営を継続することで畜産基盤の確保を図る。																								
事業内容	秋季地区畜産品評会の開催や、出品経費等の助成 共進会前の品質向上対策（手入れ指導等） 九州連合ホルスタイン共進会への出品経費等の助成																								
開始経緯	肉用牛及び乳用牛等の改良を目的に昭和27年より開始。																								
実施状況	(R5実績) (1) 肉用牛共進会 (春季) 市：4/13～4/17＝75頭 郡：5/12＝36頭 (秋季) 市：8/30～9/6＝73頭 郡：9/15＝29頭 県＝9/30＝1頭 (2) ホルスタイン共進会 郡：開催なし 県：10/27＝3頭 (3) 市枝肉共励会 4回																								
成果	4年ぶりに市、郡、県の各共進会が開催され、肉用牛、乳用牛ともに県共進会への出品となった。 肉用牛においては、若雌2区での出品となり最優秀賞3席、乳用牛は8区で最優秀賞2席を獲得し、意欲の向上が図られた。																								
課題	育成技術の向上を図るとともに、生産者相互の交流による生産意欲向上のために必要であるが、畜産農家の高齢化や複合経営などにより、出品頭数確保に苦慮している。 各種資材や飼料高騰に伴う経費が増加しており、また、価格下落等に伴う経営逼迫の状況にあることから、出品に伴う費用負担軽減を図る必要がある。																								
改革改善案	拡充		現状維持		○ 改善		効率化		廃止終了		現在、志布志市では旧町単位で品評会を実施して、曾於地区共進会等へ出品している。これを志布志市で一本化すれば、効率よく事業実施できると思われるが、それぞれの地域においてそのような機運はない。さらに、肉用牛においては、農協（曾於地区）からの出品割当が旧町支所単位となっている。 資材や飼料高騰等の影響により経費が上昇し、経営が逼迫状況にあるため、出品謝礼等の拡充を図り、出品者の負担軽減が必要である。														

事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		家畜伝染病侵入防止対策事業		担当課		農政畜産課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度							
				担当G		畜産グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
						会計	款	項	目				備考	(実績)	(実績)	(実績)						
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予算科目		6	1	6	1											
(個別目標)			2					1次産業が発展し続けるまち		主な費目		負担金、補助及び交付金				ア	消毒資材	件	25 8	24 6	9 3	419
(施策)			2	1次産業の振興		対象		畜産農家				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
(基本目標)			1	稼ぐ志布志をつくるとともに、安心して働けるようにする								ア	粗生産額（畜産部門）		億円	190 191	190 194	190 203	200	200	200	
(施策)		2	新規就農総合支援プロジェクト		事業期間		H29 年度～ 年度（ 年間）				イ											
(1)総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)		4年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (計画・予算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価					
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円										有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	口蹄疫、鳥インフルエンザ並びに豚流行性下痢、豚熱はウィルスの蔓延に伴い被害が拡大する。農場内外を消毒することにより、侵入や蔓延防止を図る。市内に農場のある畜産農家全戸を対象としている。事業費に対して補助率の設定や、補助交付に上限を設けているので公平である。また、系統においては、農協の支援も願います。						
		その他特定財源	千円																			
	一般財源	千円	1,058	450	325	7,050	7,000	7,000														
	事業費計（A）	千円	1,058	450	325	7,050	7,000	7,000														
	所要人員（年間）	人	0.300	0.100	0.100	0.300	0.300	0.300														
	人件費概算（B）	千円	1,680	560	560	1,680	1,680	1,680														
(A) + (B)		千円	2,738	1,010	885	8,730	8,680	8,680														
(2)事業概要																						
事業目的	海外悪性伝染病（口蹄疫、鳥インフルエンザ）並びに豚熱の侵入・発生を防止するため、消毒薬を購入し配布することで、侵入防止への意識向上、啓発を図る。なお、消毒施設（機器）、防鳥ネット（柵）整備に対し一部助成を行うことで、畜産農家の防疫強化と所得向上を図る。																					
事業内容	口蹄疫、鳥インフルエンザ並びに豚熱等の侵入防止並びに蔓延防止を図るため、消毒薬の配布並びに消毒施設（機器）、防鳥ネット整備に対する助成を行う。																					
開始経緯	国内において、平成22年度の口蹄疫、鳥インフルエンザの国内発生、平成25年度に豚流行性下痢（PED）の発生、平成30年度には国内で豚熱が発生し、また、令和5年8月には九州地区でも発生が確認された。アジア諸国においては、口蹄疫・鳥インフルエンザ・アフリカ豚熱が継続して発生しているため、場内の消毒を徹底しウィルスの侵入及び蔓延防止を図るため、消毒薬を配布することで自衛防疫に対する対策強化、農家の自衛防疫に対し助成を行う。																					
実施状況	(R5年度実績) 消毒資材 団体：肉用牛3団体 侵入防止 消毒ゲート（動噴）設置1件																					
成果	自衛防疫を行うことにより、伝染病の侵入を防止し、経営の安定が図られた。																					
課題	近隣諸国や国内において、家畜伝染病の発生が継続しているため、引き続き支援を行う。 市内農場において、全農場を対象に消毒薬を配布し、一斉に消毒薬を散布することで、侵入防止を図る必要がある。																					
消毒に関する機器等やネットの整備について支援することで、防疫体制の構築が期待できる。また、市内の畜産農家（農場）を対象に消毒資材の配布を行い、防疫意識向上を図る。																						